

女子ラグビー中長期戦略計画

2023.4.1



JAPAN RUGBY
FOOTBALL UNION

概要

0 | 要約

1 | 女子ラグビー中長期戦略計画の位置づけ

2 | 日本女子ラグビーの現状把握

3 | 日本女子ラグビー戦略の目指す姿・アクションプラン



概要

0 | 要約

1 | 女子ラグビー中長期戦略計画の位置づけ

2 | 日本女子ラグビーの現状把握

3 | 日本女子ラグビー戦略の目指す姿・アクションプラン



ラグビーW杯の自国招致のために女子独自のターゲット・ミッション・ビジョン策定がキーであり、女子ラグビーは競技を超えた女性の社会モデル輩出をビジョンとして掲げる

日本女子ラグビー 戦略策定の意義

- World Rugby(WR)が女子ラグビーの戦略計画を発表し、女子ラグビーの重要性を強調。それに伴い、強豪国のラグビー協会が女子ラグビーの独自戦略・予算を対外的に策定・発信
- WRは直近のワールドカップ開催地を男女同国に選定しており、今後もワールドカップ開催地は男女セットで選定される可能性がある（27年&29年：オーストラリア男女・31年&33年：アメリカ男女）
- JRFUが「JAPAN RUGBY2050」でターゲットとして掲げる「W杯の日本招致」を達成するため、男子ラグビーの盛り上がり注力すると同時に、女子ラグビーも競技として確立する重要性が高まる。日本女子ラグビーが進むべき方向性を定義し、ポジショニングを確立する必要がある

日本女子ラグビーの ターゲット/ミッション /ビジョン

- 日本女子ラグビーにおける課題を抽出するために、JRFU内部の関係者・現役選手・クラブ・海外協会等へのヒアリングをもとに女子ラグビー独自のターゲット・ミッション・ビジョンを選定
- 女子ラグビーのターゲット
 - ・ ワールドカップを再び日本に招致し世界一になる（ジャパンラグビー2050同様）
- 女子ラグビーのミッション
 - ・ 生涯に亘って女子ラグビーを日常的に感じ、ウェルビーイングをもたらすラグビーコミュニティ形成
 - ・ 誰もが**個性を発揮**し、参加できる社会実現
- 女子ラグビーのビジョン
 - ・ 競技で培った**リーダーシップ**を、社会で発揮する**女性のロールモデル輩出**
 - ・ ラグビーを通して**多様性の価値を体現・発信する先駆者**となる



女子ラグビーの提供価値を可視化・共有・発信する場であるコミュニティ形成がビジョン実現において重要である。

日本女子ラグビーの 重点領域

■ 定義したターゲット・ミッション・ビジョンを実現するための重点領域を以下の3つと設定

①持続的なパスウェイ構築

- いつでも・どこでも・誰でもラグビーに携わる環境を整備
- 女子ラグビーへ関与し続けることによるウェルビーイング向上につながる循環サイクル実現

②女子ラグビーコミュニティ構築

- 女子ラグビーの存在意義を顕在化させる「場」の提供
- コミュニティ内では、女子ラグビーの価値を共有・発信

③リーダーシップの育成

- 女子ラグビーという競技を通じてリーダーシップを体得
- グローバルな視点を保有する人材輩出に貢献し、女性の社会進出のフロントランナーへ成長



概要

0 | エグゼクティブサマリ

1 | 女子ラグビー中長期戦略計画の位置づけ

2 | 日本女子ラグビーの現状把握

3 | 日本女子ラグビー戦略の目指す姿・アクションプラン



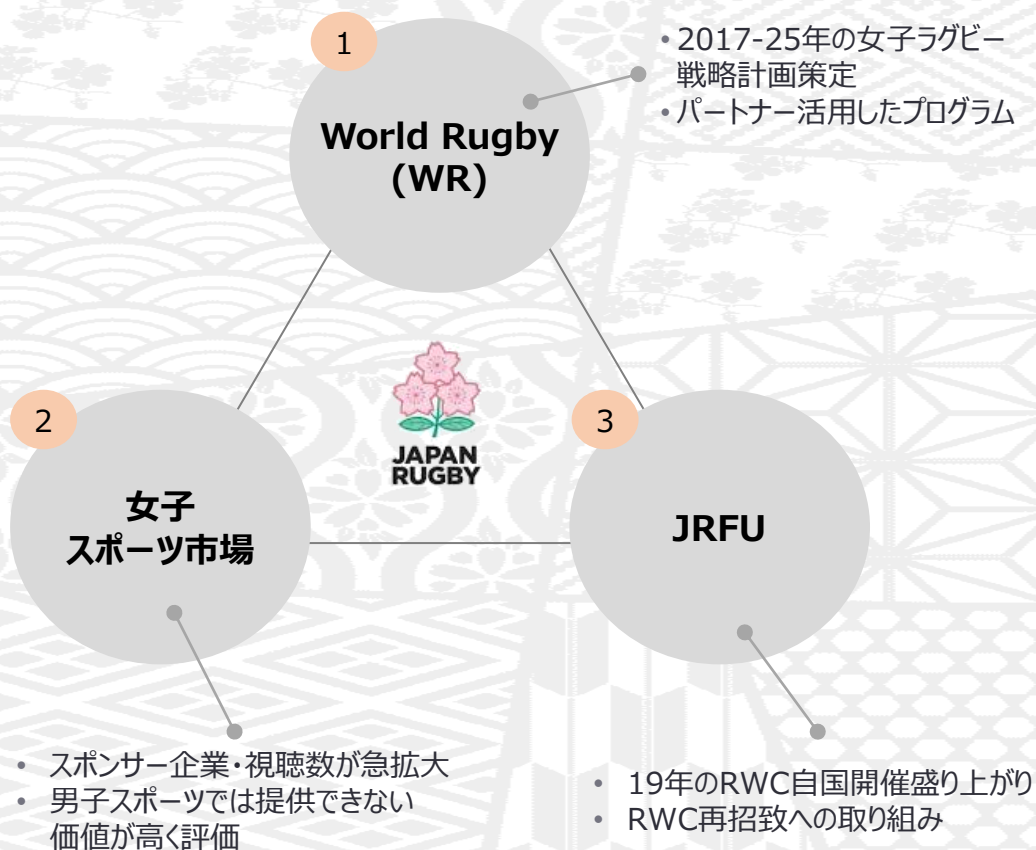
1.女子ラグビー中長期戦略計画の位置づけ 全体像

本戦略計画は、「JAPAN RUGBY 2050」をもとに、女子ラグビーが今後の目指すべき方向性とそのアクションプランを示すものである



WRが女子ラグビーに対する戦略に応じて、各国の海外協会が女子ラグビー独自の戦略策定と投資計画を発表

日本女子ラグビーを取り巻く市場環境



各国ラグビー協会の動き



- 民間の投資ファンド(Silverlake)からの出資を受け入れてコマーシャル会社を設立
- ユース・女子ラグビー中心に投資することを発表



- 17年-21年の4年間における女子ラグビーのアクションプラン策定



- 18年-23年の女子ラグビーのアクションプラン策定
- 22年にアクションプランの達成度を評価
- 女子ラグビーへの追加投資を決定



- 22年から26年の女子ラグビー戦略を策定
- £ 2.5mの追加投資含む £ 4.1m (昨年比2倍)の予算を女子ラグビーへ配分

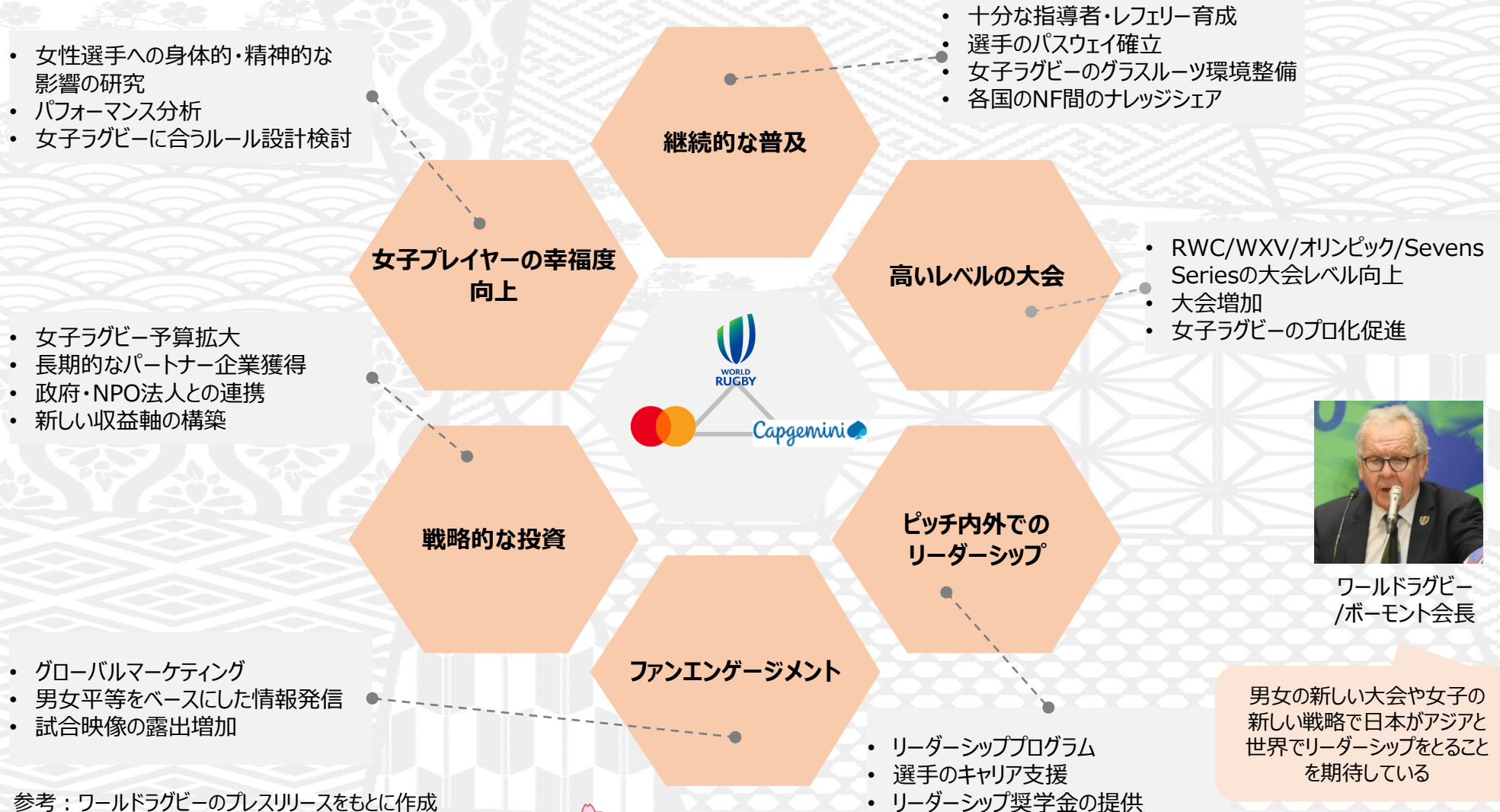
参考：各国のプレスリリースをもとに作成



**JAPAN RUGBY
FOOTBALL UNION**

WRは女子ラグビーにおける重点領域を定義し、実行に必要なガイドラインを提示しており、WRは日本に対してアジア内でのイニシアチブをとることを期待

2021-2025 World Rugby における女子ラグビーの重要領域



ワールドラグビー/ボームント会長

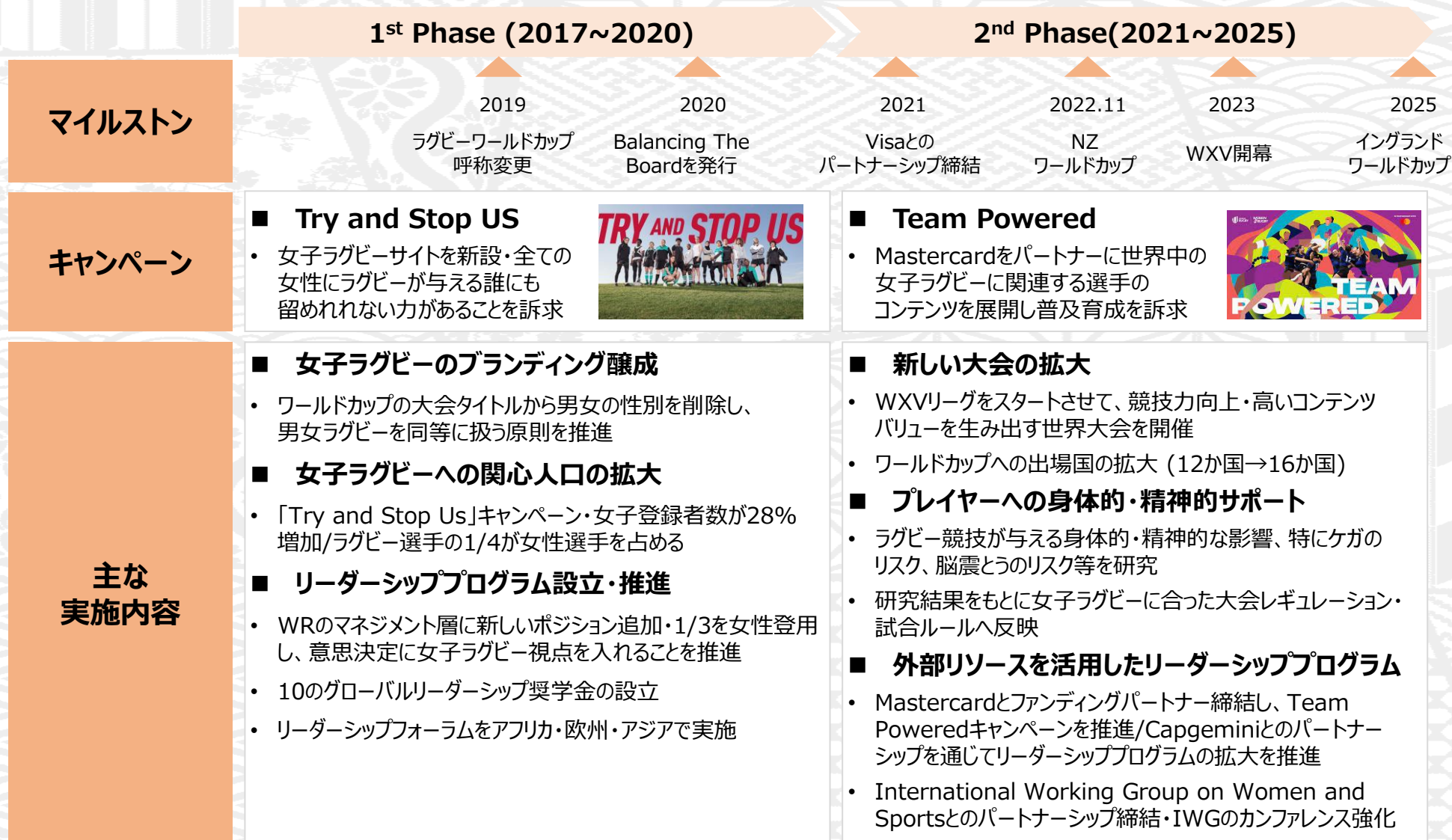
男女の新しい大会や女子の新しい戦略で日本がアジアと世界でリーダーシップをとることを期待している

参考：ワールドラグビーのプレスリリースをもとに作成



JAPAN RUGBY FOOTBALL UNION

WRは女子戦略に従い、パートナー企業を活用し女子ラグビー投資を本格化。 各ラグビー協会に対して男子・女子ラグビーを対等に位置づけるように推奨

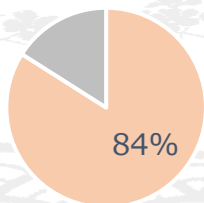


女子スポーツは近年、視聴者数・入場者数が急増し、欧米を中心に商業化に成功。 日本女子ラグビーも提供価値を再定義し価値訴求することが求められる

女子スポーツの商業化加速

女子スポーツ独自の提供価値浸透

興味



- 84%のスポーツファンが女子スポーツに関心があると回答
- 上記84%のうち男性：女性=51%：49%であり偏りなく獲得できている

視聴



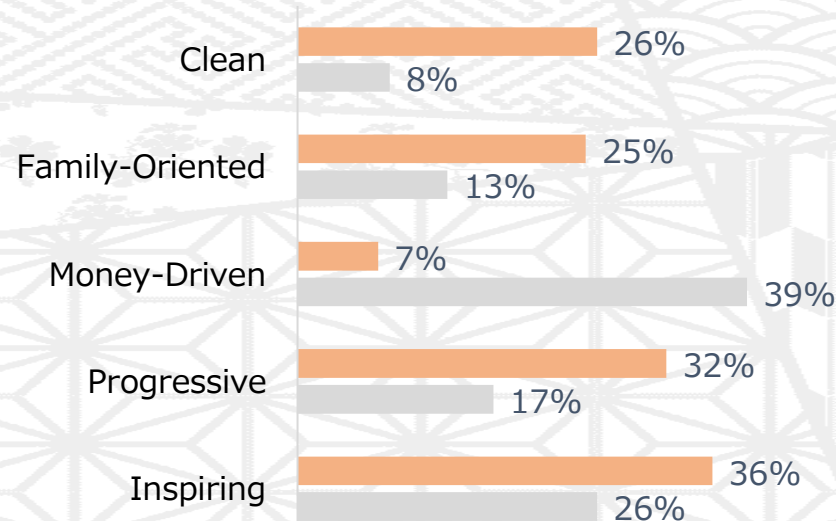
- 興味関心を受けて各放送局が女子スポーツの放送番組を拡大
- イギリスでは2012年と比較して女子スポーツの視聴時間が7倍に増加

来場



- サッカー-欧州選手権、スペイン女子サッカーリーグの試合(91553人)等、入場者数の大会記録を更新

Women's Sports Men's Sports



- 男子スポーツと比較し、進歩的/家庭的/商業的でなくクリーンなスポーツという位置づけ
- 企業は女子スポーツに新しい提供価値を見出しており、女子スポンサーシップ市場拡大

参考：Nielsen Sports Women's Sports Research 2018（世界8市場を対象にした女子スポーツへの意向調査）

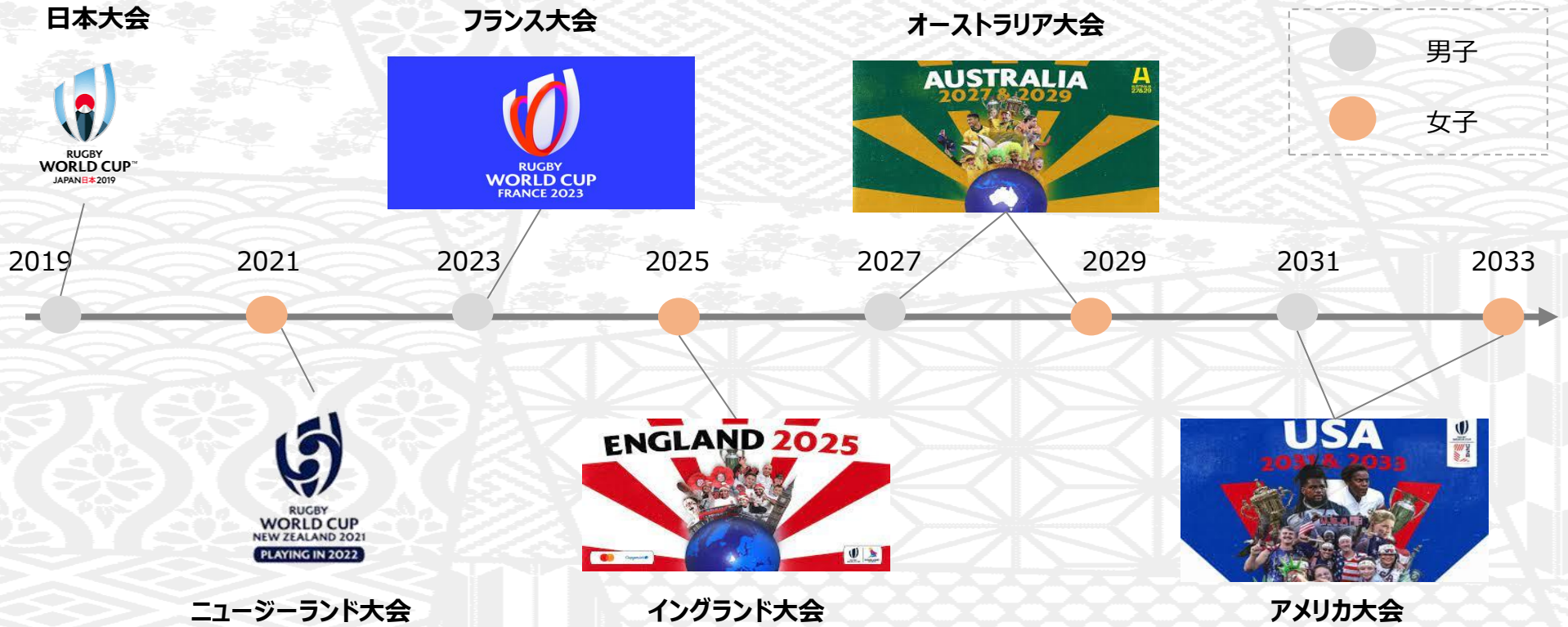


JAPAN RUGBY
FOOTBALL UNION

3 1.女子ラグビー中長期戦略計画の位置づけ World Rugbyの女子ラグビーへの取り組み

ワールドカップの開催地が男女セットで決定する傾向が続いており、ワールドカップ招致に向けて女子ラグビーの位置づけが重要な選定基準になると推察

ラグビーワールドカップの開催都市



男女W杯をジェンダー平等にリブランディング・大会タイトルからジェンダーを外すことを発表(2019)

2027年大会以降は男女セットで開催地を決定(2022)

参考：ワールドラグビーのプレスリリースをもとに作成



JAPAN RUGBY
FOOTBALL UNION

日本へW杯を再招致するためには、男子ラグビーから女子ラグビーへ盛り上がり 波及させて顧客を誘導させることがポイントとなる

2019年RWCでの成功



視聴数

- テレビ：8億5728万人
(RWC15 6億7853万人)
- SNS：20.4億回
(RWC15 3.7億回)

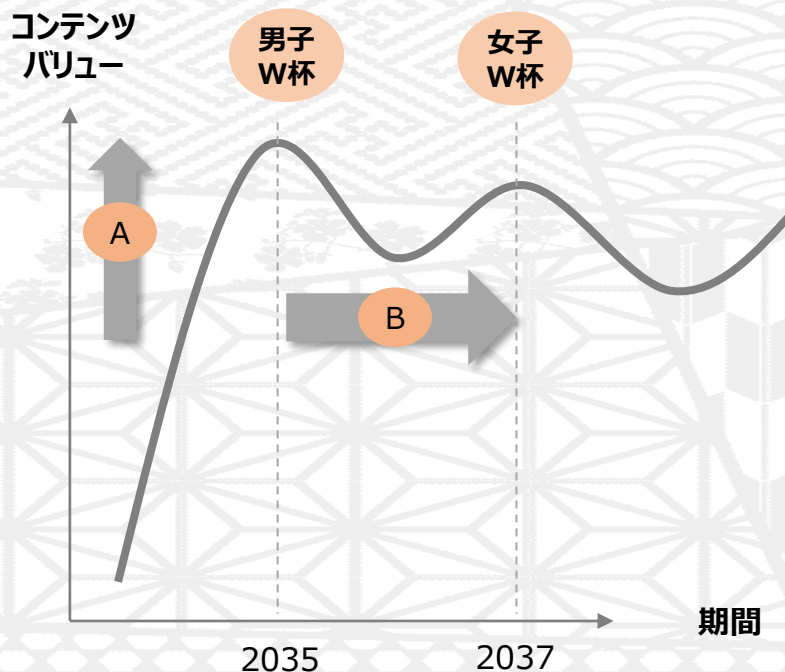
来場者数

- チケット販売：183.7万枚(販売率99%)
- チケット収入：389億円
- ホスピタリティパッケージ：100億円

経済効果

- 経済波及効果：6,464億円
- 税収拡大効果：412億円
- 雇用創出効果：46,340人

W杯再招致のポイント



A

日本全体でどうラグビー全体を盛り上げるか
(普及・育成・強化・商業化の観点で)

B

男子W杯の熱量をいかに女子W杯へつなげるか

参考：EY ラグビーワールドカップ経済効果・大会成果分析レポート



JAPAN RUGBY
FOOTBALL UNION

概要

0 | 要約

1 | 女子ラグビー中長期戦略計画の位置づけ

2 | 日本女子ラグビーの現状把握

3 | 日本女子ラグビー戦略の目指す姿・アクションプラン



日本女子ラグビーの現在地を把握のために、JRFU内部・外部の有識者へインタビュー実施し、現状業務から現状課題を抽出

情報ソース		ヒアリング内容	
JRFU 内部	<ul style="list-style-type: none"> 代表強化部 国際部 財務部 大会運営部 普及育成部 プロモーション部 メディア事業部 マーケティング部 広報室 	<ul style="list-style-type: none"> 現状業務・女子ラグビーの業務内容 KPI・ミッション 業務上の課題 女子ラグビー拡大に必要なこと 戦略計画に加えてほしいこと 	
選手	<ul style="list-style-type: none"> ラグビー女子日本代表 	<ul style="list-style-type: none"> 選手のパスウェイ パスウェイを振り返った際の課題 選手視点のニーズ 	
クラブ	<ul style="list-style-type: none"> 国内女子チーム 	<ul style="list-style-type: none"> クラブの活動状況・クラブのビジョン 女子ラグビーに必要なこと・協会へのニーズ 	
学校	高校	<ul style="list-style-type: none"> 高校女子チーム 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動の実施状況・女子ラグビー創設背景 女子ラグビー部保有のメリット
	大学	<ul style="list-style-type: none"> 大学女子チーム 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動の実施状況・女子ラグビー創設背景 パスウェイ上の課題



ヒアリングの結果、「持続的なパスウェイ構築」・「女子ラグビーの提供価値を共有する場の提供」・「リーダーシップ育成による海外ネットワークの構築」が課題であると判明

課題		詳細	パスウェイ	コミュニティ	グローバル
普及	ラグビーを始めるきっかけづくり増加	<ul style="list-style-type: none"> ラグビーをプレーできる拠点(チーム・学校)が増加すべき 協会と各地域の橋渡しをするRDO設置等、日本協会と各都道府県協会とのコミュニケーションを密にすべき 			
	女子ラグビーのロールモデル構築	<ul style="list-style-type: none"> 女子ラグビーのロールモデルが不在であり、プレーする子供が何を目指すべきかが明確にすべき 			
育成	女子ラグビーをプレーするチーム・大会の確保	<ul style="list-style-type: none"> 都市部ではグラウンド確保・地方ではラグビーチーム・指導者確保 7人制と15人制のプレー機会のバランスをとるための定期的な大会を増加 			
	小学～中学/中学～高校/高校～大学等の移行期におけるプレー環境整備	<ul style="list-style-type: none"> 学校環境が変化する際の離脱率が低くして、持続的なパスウェイを用意する必要あり 			
強化	選手強化のためのサポート体制	<ul style="list-style-type: none"> ラグビー強化に英語のコミュニケーション能力が不可欠であり、協会主導で英語教育を取り入れるべき クラブと代表活動が両立できるスケジューリングすべき 			
	他国ラグビー協会とのコネクション強化	<ul style="list-style-type: none"> 海外拠点との交流を積極的に行い、ノウハウを獲得 定期的な国際マッチをセットし、プロモーションを計画的に実施 			
その他	女子の試合興行以外の収益源確保	<ul style="list-style-type: none"> 女子ラグビーは、興行単独では収益化が難しいため、興行以外での収益源(パートナーシップメニューの拡充)を検討すべき 			
	女子ラグビーの提供価値の定義・訴求	<ul style="list-style-type: none"> 女子ラグビーのマスメディア露出は限定的であるため、男子とは別の価値を訴求し新しいブランディングを展開すべき 			

持続的なパスウェイ構築

提供価値を共有できる場(コミュニティ)提供

リーダーシップ育成による海外ネットワークの構築



2. 日本ラグビーの現状把握 パスウェイの課題

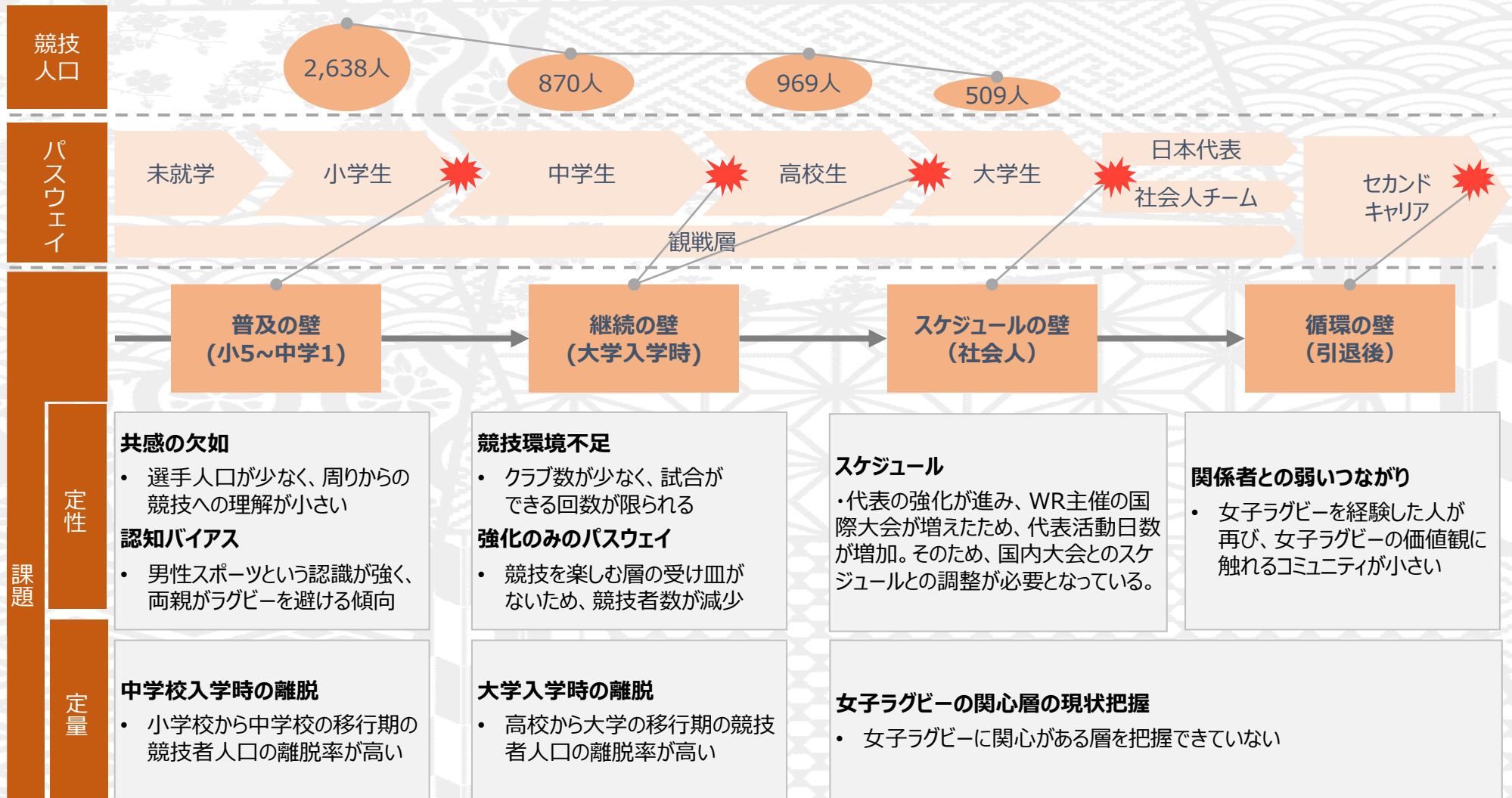
選手は小学校から高校まで女子ラグビーを継続するための環境が十分に整備されておらず、関係者も引退後、日常的に女子ラグビーに関与できる循環が発生していない

女子ラグビーのパスウェイ上の課題

パスウェイ

コミュニティ

グローバル



※競技人口は、2022.10月度の0歳～22歳の競技人口



JAPAN RUGBY
FOOTBALL UNION

日本の男子ラグビーは「ダイバーシティ」・「One Team」と標語と共にポジショニングを確立。 女子ラグビーのポジショニングを明確にする必要がある

パスウェイ

コミュニティ

スキルアップ

イギリスで教育ツールとして普及



人格陶冶の教育ツールとして活用

- 集団スポーツを人格陶冶のための有効な教育手段として重視する考え方（アスレティズム）が浸透
- ラグビーは競技の性質上、善意・チームメイトとの連携が求められるスポーツであり、教育ツールとして広まる



各国に適応したラグビーの存在意義



自民族のプライド

- 先住民マオリ族への感謝
- NZ移民者が団結するためのツール



ダイバーシティ

- チーム多様性の尊重
- 日本の時世とのマッチング



JAPAN RUGBY
FOOTBALL UNION

女子ラグビーは他の女子スポーツと比較し、身体的な強さとリーダーシップ性を保有するユニークなポジショニングに位置付けられており、それらを存在意義・提供価値として打ち出すべきである

パスウェイ

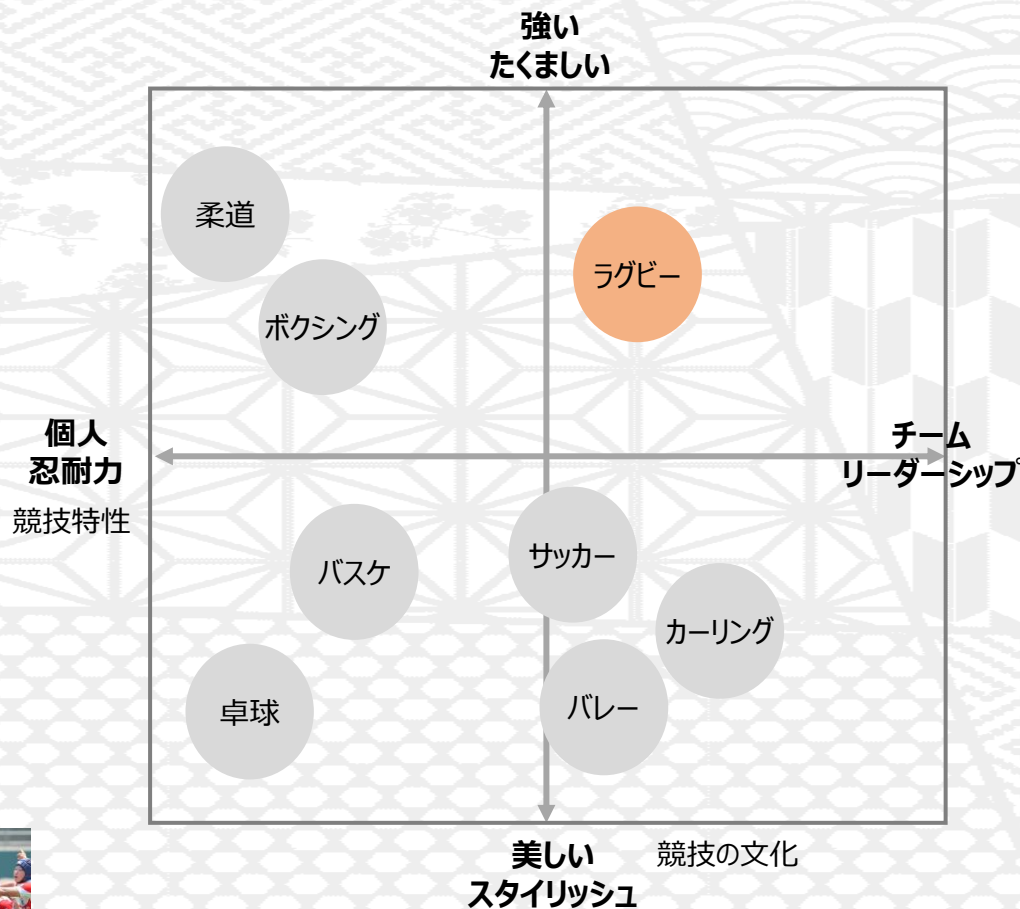
コミュニティ

スキルアップ

他スポーツとのラグビーの差別化要因

女子ラグビーの競技としてのポジショニング

心	<p>グローバル志向</p> <ul style="list-style-type: none">ラグビースキルを高めるために、海外留学・移籍を通じて海外から積極的に学ぶ姿勢 <p>開拓者精神</p> <ul style="list-style-type: none">女性が、競技をする環境が限られている中でも、自ら競技する機会を切り拓いてきた。
技	<p>問題解決能力</p> <ul style="list-style-type: none">プレー環境が限られている中で、プレーするための問題解決能力と行動力
体	<p>自由度の高い競技</p> <ul style="list-style-type: none">「自由と規律」のスポーツであり、各プレイヤーがリーダーシップを発揮体の大きい選手に果敢に立ち向かう姿勢 <p>集団行動・スクラム</p> <ul style="list-style-type: none">チームメイトと肩を寄せ合い、前に進みながらも背後のチームメイトをフォローを実現



参考：JRFU内外のヒアリングをもとに作成



JAPAN RUGBY
FOOTBALL UNION

概要

0 | 要約

1 | 女子ラグビー中長期戦略計画の位置づけ

2 | 日本女子ラグビーの現状把握

3 | 日本女子ラグビー戦略の目指す姿・アクションプラン



「JAPAN RUGBY 2050」をベースに、女子ラグビーという競技を通じて日本の女性アスリートのロールモデルを輩出するというビジョンを設定

TARGET(目標)

ワールドカップを再び日本に招致し、世界一になる
(女子は最短で、2037年)

MISSION (使命)

ラグビーが、世界一身近にある国へ

女子ラグビーのMISSION

- 生涯に亘って女子ラグビーを日常的に感じ、ウェルビーイングをもたらすラグビーコミュニティの形成
- 誰もが個性を発揮し、参加できる社会実現

VISION (未来像)

世界のラグビーをリードし、
スポーツを越えた社会変革の主体者となる

女子ラグビーのVISION

- 競技で培った「リーダーシップ」を、社会で発揮する女性のロールモデル輩出
- ラグビーを通して多様性の価値を体現・発信する先駆者となる



女子ラグビーのミッション・ビジョンを実現するために、WRの重点領域に合致する以下の3点を重点領域として設定

女子ラグビーの重点領域

1

持続的なパスウェイの構築

- いつでも・どこでも・誰でもラグビーに携わることができる環境を整備し、**競技団体としての核を構築**
- 女子ラグビーへ人々が持続的に関与することで、関与する人々のウェルビーイング向上に貢献

継続的な普及

高いレベルの大会



2

女子ラグビーのコミュニティ（※）構築

- 女子ラグビーが保有する**存在意義・提供価値**が集約し、顕在化させる
- 女子ラグビーに関わる全てのステークホルダーが**女子ラグビーの価値を共有し、その価値を発信**

ファンエンゲージメント

戦略的な投資



3

リーダーシップ育成

- 女子ラグビーに関わる全てのステークホルダーが**競技を通じてリーダーシップを体得**
- グローバルな視点をもつ人材輩出**に貢献し、JRFUが女性の社会進出を体現するフロントランナーへ成長

ピッチ内外のリーダーシップ



※コミュニティ：女子ラグビー関係者が女子ラグビーのミッション・ビジョン・バリューを共有・発信する空間



パスウェイ構築は都道府県協会・クラブとコミュニケーションを行い、 女子コミュニティとリーダーシッププログラムは実施内容の精緻化がファーストステップ

領域

アクションプラン

パスウェイ 構築

普及

- 各都道府県で定期的な拠点活動の実施
- 女性のRegional Development Officerの配置

育成

- 各9ブロックへのコーチ派遣・タレント発掘の実施
- コーチインターン制度の導入

強化

- 競技レベルが均衡した国際試合・国内試合の試合数確保
- 代表とクラブ間の連携による強化方針の浸透
- エリートレフリー・エリートコーチの育成・強化

女子コミュニティ 構築

- 女子ラグビーに関する情報・コンテンツの発信の強化
- 女子ラグビーコミュニティ活動の活性化によるメンバー・パートナーの拡大

リーダーシップ 育成

- 海外ネットワークを構築するために必要な英語教育支援
- 既存のリーダーシッププログラムの活用/ラグビーを通じたリーダーシッププログラムの開発

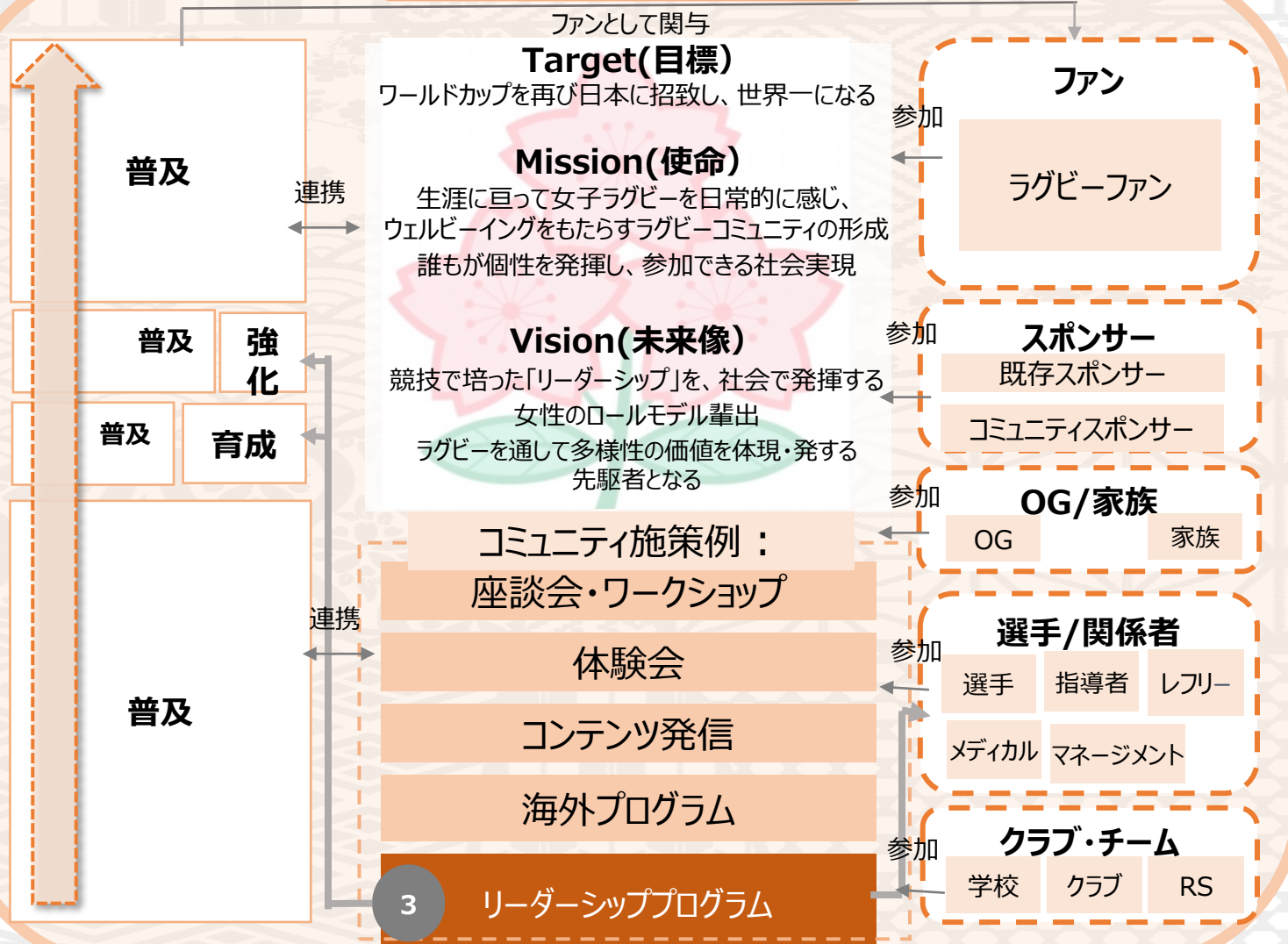


持続的なパスウェイと女子ラグビーの提供価値を共有できるコミュニティを構築し、女性のロールモデルを社会に輩出するミッションを実現

1 持続的パスウェイ構築

女子ラグビーコミュニティ

2 女子ラグビーコミュニティ構築



1

持続的なパスウェイ構築：

- 各人にあったパスウェイが確立し、生涯にわたって女子ラグビーに関わることができる選択肢を提供

2

女子ラグビーのコミュニティ構築：

- 女子ラグビーが存在意義・提供価値を関係者と共有・発信できる場を構築

3

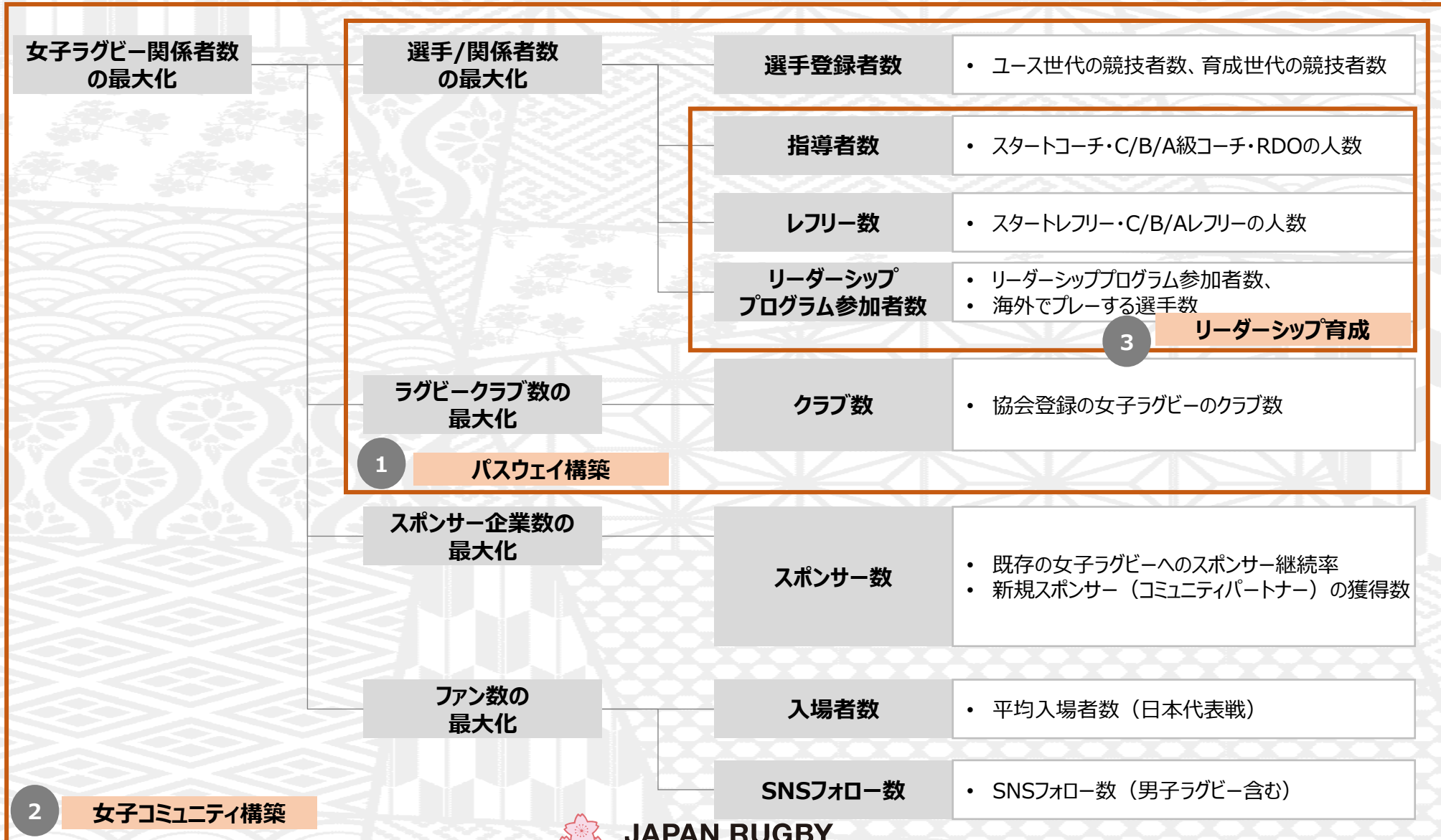
リーダーシップ育成：

- 女子ラグビーが元来保有するリーダーシップを強化
- 体得したリーダーシップを海外やスポーツの枠を超えた領域へ発揮する環境を提供

3点の重点領域は以下4カテゴリで定義される女子ラグビー関係者数で達成度を測定

女子ラグビーのゴール

女子ラグビーが目指すべき定量目標 (KPI)



女子ラグビーの選手登録者数を年率6.5%で拡大させて2050年に1万人を達成

大項目	中項目	KPI	2022 (現状)	2025 (中間)	2028	2050(目標)
選手/関係者/クラブ	選手登録者数	未就学児・小学生 (0歳~11歳)	2,779	3,357	4,054	10,000
		中学生(12~14歳)	751	907	1,095	
		高校生(15~17歳)	768	927	1,120	
		18歳以上	807	974	1,177	
	選手離脱率	中学入学時の離脱率	12%	11%	10%	10%
		大学入学時の離脱率	47%	46%	45%	45%
	女子指導者数	スタートコーチ	354	434	531	1062
		B級コーチ	18	22	27	54
		C級コーチ	70	90	110	210
		A級コーチ	7	9	11	21
	女子レフリー数	スタートレフリー	90	97	104	115
		C級レフリー	47	50	53	65
		B級レフリー	38	40	40	50
		A級レフリー	1	1	2	8
	RDO	RDO	0	3	4	9
拠点活動数	拠点活動都道府県	0	6	15	47	
クラブ数	女子クラブ数	75	78	80	100	
リーダーシップ	リーダーシッププログラム 参加者	0	1	3	10	
選手/関係者(強化)	競技者数	海外でプレーする選手数	5	10	15	20
	レフリー数	World Rugbyパネルレフリー	0	0	0	1
	大会成績	7人制	東京五輪：12位	パリ五輪：メダル獲得	ロス五輪：メダル獲得	2048五輪:金メダル
15人制		NZ大会：12位	RWC：8位以上	世界ランク：6位以内	世界ランク：3位以内	
スポンサー/ファン	ファン数	平均入場者数	4,500	6,800	8,000	15,000
		SNS総フォロワー数 (男女)	422,000	488,518	565,520	700,000
	スポンサー数	女子ラグビースポンサー数 (男女含む)	11	12	15	20



女子ラグビーの提供価値を浸透・確立し、女子ラグビーというスポーツ競技の枠を超えた女子スポーツコミュニティ形成に貢献する競技団体へ成長

2023-2030

2030-2040

2040-2050

フェーズ

女子ラグビー提供価値の
共有・発信
『EMPOWER』

女性スポーツの存在意義確立
『EXPAND』

日本を代表する
女子スポーツコミュニティを形成
『LEAD』

1

パスウェイ
構築

都道府県協会・クラブとの連携強化

- 地域間でラグビー環境の偏りを平準化されており、誰でも平等にラグビーを楽しめる
- クラブと代表との連携を強化し、代表とクラブがシナジーを生みだしている

ガバナンスが効いたパスウェイ確立

- 協会が発信する普及・育成・強化の方針とチーム、指導者の体制が連動している
- 女子ラグビーの魅力が社会に浸透して、競技人口が拡大している

各々が自分に合ったパスウェイを選択
できる環境整備

- 普及・育成・強化・セカンドキャリアまでがワンストップで整備されている
- 日本女子スポーツのフロントランナーとなる

2

女子コミュニティ
構築

女子ラグビーの提供価値が浸透

- 女子ラグビーコミュニティを中心とした存在意義・提供価値が浸透している
- 企業・クラブをコミュニティに取込みながら、メンバーを拡大している

他の女子スポーツとの連携

- 女子ラグビーの考え方が他の女性スポーツにも浸透し、女子コミュニティの規模が拡大している

スポーツを超えたコミュニティへ発展

- 参加者主導の取り組みが次々と生まれてサービスが多様化している
- 他産業とのコラボレーションが生まれている

3

リーダーシップ
育成

プログラムのフォーマット化

- 女子ラグビーが目指す人物像を定義できている
- リーダーシップ・留学プログラムを立ち上げている

海外協会との連携強化

- 海外協会・クラブと連携したリーダーシッププログラムが充実している
- 女子ラグビー選手の人材価値を言語化して発信できている

人材輩出の場としてのブランド確立

- 女子ラグビー関係者はグローバルリーダーシップを保有していることが社会に浸透している



JAPAN RUGBY
FOOTBALL UNION